

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果

平成21年度「全国学力・学習状況調査」の結果が公表されましたので、錦江町教育委員会より、本町の結果の概要をお知らせします。

なお、①本調査は、児童生徒が身につけるべき学力の一部について調査したものであり、学力の全てを表したものではないこと、②本町は調査対象となる児童・生徒数が少ないため、結果はあくまで目安であることを念頭に御覧ください。

【調査の目的】

- 1 国が、全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童生徒の学力・学習状況を把握・分析し、その結果を検証するとともに改善を図る。
- 2 各教育委員会、各学校等が、全国的な状況との関係において自らの教育の結果を把握し、改善を図る。また各学校において、各児童生徒の学力・学習状況を把握し、学習指導等に役立てる。

【調査の方法】

- 1 調査対象 小学校第6学年、中学校第3学年の全児童・生徒
- 2 調査内容

(1)教科に関する調査（国語科、算数・数学科）

- 主として「知識」に関する問題（国語A、算数・数学A）→ 基礎的な内容
- 主として「活用」に関する問題（国語B、算数・数学B）→ 応用的な内容

(2)生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

【教科に関する調査結果と改善へ向けてのポイント（概要）】

教科等	結果の概要	改善に向けて
小学校	<p>国語</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「A問題」は、全国平均よりやや高く、今回出題の基礎的内容については概ね身につけていると考えられます。 ○「B問題」は、昨年同様、全国平均をやや下回っており、知識等を活用する能力を高める必要があります。 ○領域別には、基礎的内容では全領域ともよい結果を示しましたが、活用する場面において「書くこと」「読むこと」が全国平均を下回っています。「話す・聞く」能力については、A問題B問題とも全国平均と同程度の結果でした。 	<ul style="list-style-type: none"> ○読書指導の充実、特に新聞や科学雑誌等、幅広い分野の読書の推進 ○全教育活動を通じた「書く活動」の充実と文章構成力を育成するための指導の工夫 ○目的に沿った文章等の作成、一つの資料から別の資料（案内文等）を作成する活動の充実 ○読み取った内容を要約したり、それに対して、自分の知識や経験と関連づけて意見を発表する等の活動の充実 ○国語辞書の積極的活用
	<p>算数</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「A問題」は全国平均と同程度であり、今回出題の基礎的内容については概ね身につけていると考えられます。 ○「B問題」は、県と同様、全国平均をやや下回り、知識等を活用して課題を解決する力を高めていく必要があります。 ○領域別に見ると、昨年同様「図形」に関する問題については良好な結果を示していますが、「量と測定」領域において数学的な考え方を伴う問題に課題が見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ○習熟度に応じて、発展的な課題、特に各教科や領域を横断した課題を与えるなど、活用能力の育成を図る学習の工夫 ○基本的な量や重さについて、他教科との関連を図りながら、その感覚（量感）を養わせる活動の工夫 ○円周や円の面積等に関する知識や計算技能等の定着を図る指導法の工夫 ○自己の考えを筋道立てて表現する（書く）活動の充実